

令和6年度第2回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日時 令和7年2月6日（木）13:00～14:30
- 会場
- 出席者 <委員（五十音順）>
 - 三村会長、加賀副会長、赤木委員、上田委員、泉水委員
 - 中尾委員、那須（拓）委員、松井委員、三宅委員、山口委員
 - ※委員15人中10人の出席であり、本審議会は成立
 - ※議事に先駆けて、委員の互選により、全会一致で三村委員が会長、加賀委員が副会長に選出された。
- <事務局>
 - 環境文化部：大熊環境文化部長、坂本文化スポーツ振興監、
矢吹参与（おかやまマラソン担当）、
村上国民スポーツ大会推進室長、
山本スポーツ振興課長
 - 子ども・福祉部：藤本障害福祉課総括参事
 - 教育庁：片岡保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

- 環境文化部長あいさつ
 - ・スケート・アイスホッケー競技会冬季大会として、西日本で初めて開催された第79回国民スポーツ大会冬季大会「晴れて輝け！おかやま国スポ」は昨日無事に幕を閉じた。本県選手も地元の大きな声援を受け、目を見張る活躍を見せてくれた。これまでのご支援に感謝申し上げます。
 - ・今月15日には、ファジアーノ岡山のJ1での戦いが始まる。近年の岡山ゆかりの選手やトップクラブチームの活躍は、地域を大いに盛り上げてくれており、県としては、引き続きスポーツを通じて県全体に元気を届けることができるように、各施策にしっかりと取り組んでまいりたい。
 - ・本日は、第2次岡山県スポーツ推進計画の改訂、来年度のスポーツの推進に係る主な事業、スポーツ団体への補助金について諮るほか、フリーディスカッションでは、「地域スポーツの役割と課題」をテーマとしている。限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 第2次岡山県スポーツ推進計画の改訂について

資料1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

(会長)

第4次晴れの国おかやま生き生きプランと年数を合わせ、第2次岡山県スポーツ推進計画を令和10年度まで1年延長することだが、スポーツ推進計画が5年間、生き生きプランが4年間となっており、今後次の改定の際に生き生きプランと期間を合わせるのか。

(スポーツ振興課長)

生き生きプランとスポーツ推進計画それぞれ期間が異なっており、今後、時期を見計らって適切な期間を検討する。

(委員)

「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合」について、計画期間が一年延長となり、目標値が下がっているが理由は何か。

(保健体育課長)

第3次生き生きプランの目標値を第2次スポーツ推進計画の目標値としている。第4次生き生きプランの目標値設定の際に、新型コロナの影響があり、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力の合計点が下がっていたため、小5男子、小5女子、中2女子は下方に修正、中2男子は回復傾向にあり上方に修正した。全て下方修正ではなく、コロナ禍を踏まえ、今後実現可能な目標に再設定したものだ。

(2) 令和7年度スポーツの推進に係る主な事業について

資料1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①基本施策I

(多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出) 関係

【学校における体育・スポーツ活動の充実】

(委員)

第2次岡山県スポーツ推進計画目標値が減少しているが、体力向上推進リーダー派遣事業の中で「子どもの体力向上や運動習慣の定着を図る」とあるが、整合性がとれていないのではないか。

子どもの体力をどう考えているか。コロナ禍は既に収束しているが、スピード感を持って子供たちの体力の向上を考えているか。

(保健体育課長)

トレーニングをすれば体力テストの数値はすぐに上がるが、それではスポーツが好きにはならない。体を動かす事が好きという児童生徒を増やすため体育の授業改善を実施する。数値目標で運動をすることが好きという数値はすぐには増えない。コロナ禍で右肩下がりになっている。その現状を踏まえて現状値の2ポイントを上げるという目標を再設定し、スポーツが好きな子ども達を増やすことによって、運動習慣につなげ体力向上に繋げていく。

(委員)

運動嫌いの子どもを減らすことは、競技スポーツ・生涯スポーツ・健康寿命のうえで必要である。一方スポーツが好きな子どもを増やすことは、運動嫌いな子どもはいるのに、180度変えてスポーツが好きな子をつくろうというのは大きいことだ。小学校前のアクティブチャイルドプログラムをやっているが、連携できていないと本県の子どもたちの体力向上には繋がらない。競技力の向上にはつながらない状況になる。具体的な数値目標を設定することはいいが、それに伴う事業の連動性を高めていただきたい。

(会長)

「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合」はちょっと後押しをすれば好きになるか、少々アプローチをしても好きにならないといった二極化も考えられる。

どういったアプローチをすればうまくいくのか考えて実効性のある取り組みをお願いしたい。

(委員)

体力向上推進リーダー事業を実際に見て、体育を面白くしているのが伝わった。先生自体が楽しいと思っていけば、それが子どもにも伝わる。予算が減っているのは残念だ。

ACPで現場に訪問するが、幼児の時に体を動かすことが好きだと、その後も体を動かすことが楽しくスポーツをすることが好きになる。反面、体を動かすことが苦手であれば、その後に繋がらない。保護者の影響も大

きく、一緒に見る・話す・行くとある中で、一番簡単で効果があるのが、一緒に話すこと。家族の中でスポーツの話題が出るだけで効果がある。保護者へのアプローチの仕方があればよい。

(保健体育課長)

体育専科の配置は念願であった。現在配置されている学校では効果があると聞いている。今後とも充実させていきたい。

予算の変更は、派遣先の変更であり、事業は縮小しない。

また、予算には反映されないが、各小学校に体力向上担当者を校務分掌に位置付けている。体育授業エキスパート派遣事業のような形で独自の研修会を行い体力向上推進リーダーの好事例の周知をしている。

(スポーツ振興課長)

スポーツ推進計画の「県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を観戦した人の割合」について、家庭でスポーツを話題にし、一緒に共有するのも大事だ。

また、トップアスリート派遣事業を行っている。経験豊富なレベルの高い方にジュニアを指導してもらい、よりスポーツに興味を持ってもらうことに繋がる。

②基本施策Ⅲ

(スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造) 関係

【地域と連携した運動・スポーツ活動の推進による共生社会の実現】

(副会長)

おかやま Sport in Life 推進事業は、中学校部活動の地域移行に関係するものか。

(スポーツ振興課長)

これまでライフステージに応じたスポーツ活動推進や、スポーツの情報を提供等してきた事業であり、総合型地域スポーツクラブ活動の支援を行っていたが、現在部活動の地域移行が進んでおり、その受け皿として総合型スポーツクラブやスポーツ少年団に役割を担っていただくことがあり、その関連でもある。この中で特に少子化が進んでおり、競技力強化やスポーツに親しむことを含め、ジュニア期にスポーツに関わることが大事であり、ジュニア期のスポーツプログラムについても今後検討していきたい。

(3) 令和7年度スポーツ団体への補助金について

資料1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

■質疑等

特になし

4 フリーディスカッション

資料2

テーマ

「地域スポーツの役割と課題」

■事務局説明（スポーツ振興課長）

（スポーツ振興課長）

- ・委員の皆様方から多数のテーマを提案いただいたことに感謝申し上げます。
- ・必ずしも結論を出すことを目的とするものではないが、様々な立場からの意見を聞いて、これからの県のスポーツ推進施策に活かしてまいりたい。

■フリーディスカッション

（委員）

運動をする環境・場所が少なくなっていると感じる。

集団で走っていると危ないとの声もあり、競技者として上を目指しているが、配慮しながらの練習となっている。ランニングクラブで県営サブグラウンドを使用しているが、子ども達のクラブも利用している。その中で事故も起こっているが、環境整備が必要である。例えば、このレーンは歩く人、このレーンは走る人とレーンを分ければ事故・練習環境が改善されるのではないか。

（会長）

環境の問題はとても重要である。

（委員）

私の住んでいる地域は急激な少子化により地域移行せざるを得ない状況である。団体競技は行える競技が限られている。矢掛町では中高で部活動と一緒に行動がある。行わざるを得ない状況があるということ認識しなければならない。課題として、移動方法や費用負担の問題があるが、なかなか解決出来ていない。子ども達の興味へ向かう気持ちをどのようにすればよいか課題となっている。

(会長)

移動の問題は、時間や経費の問題もある。地域によりすぐ近くとはいかない。

(委員)

12月中旬の地域移行に関する中間報告でも、移動するのに何を使うか出ていたが、スクールバスや保護者送迎という前に、一番に自治体の役割と本気度、自治体職員が仕事を覚えた3年程度で人事異動してしまうのも問題。

もう一つは指導者をどうするか。若い指導者だと生活できない。ボランティアでやっている。商業用スポーツクラブの指導者だと会費があがってしまう。

(委員)

学校部活動の地域移行は、地域としての温度差が結構ある。県が今後どう連携をとっていくのか、どう取り組みをするのか提示しないと意見が出ない。地域移行は避けて通れない。スポーツをする対象の中学生の芽を摘んでしまうと競技スポーツの本質は大きく鈍化してしまう。障害者スポーツはなおさらだ。県として地域スポーツの取組はどうしていくのか。

(保健体育課長)

学校ではチームを組めない地域もあるが、都市部では全く必要性を感じていない地域もある。県が方向性を決めてしまうと、学校の実情に合わず、統一した見解は出せていない。令和6年度にモデル地域を指定して事業実施したが、モデル地域でありながら、なかなか進まない。「はじめの一步を踏み出してください」を合言葉に自治体で事業を実施し、実際に少しずつ動き始めた自治体がある。令和7年度は現在7モデル市町だが、12市町村で希望がある。

令和7年度は学校の部活動で地域移行に具体的につながる何か一つに取り組む。外部の指導者を活用したり、外部の施設を使用する等、モデル事業を実施していく。まずは、土日の部活動から段階的に取り組む。平日は教員が学校にいたので、現在は全てのモデル市町村で実施することは考えていない。

課題は山積するが、取組を行い、課題を見つけ解決策を見つけていく。

(会長)

地域移行に関して以前からどうするかと議論されてきた中で、状況を考えながら、どんなことでもヒントになるのではないか。

(副会長)

自分の学校で成立する自治体と、合同で行わないと成立しない自治体

があると思うが、モデル選定時は多様なパターンで選定を行っているか。
(保健体育課長)

モデル自治体の取組は、地域の実情に応じて様々である。移動手段を主としているところや、合同で行うことを主としているところなど、それぞれで実施していることを全ての市町村に広げていく。令和7年度も同様の形で進めていきたい。

(委員)

全中大会の種目が削減されるが、学校の部活動も減るのではないかと心配される方もおられるが、上位の大会が無くなったからといって、学校の部活動が無くなるとは直接的には繋がらないと考えている。

部活動の地域移行について、先進的な取組として神戸市や山口県の事例等がある。行政が主体になってリーダーシップを持って行っている。岡山県では、津山市が令和8年度から土日の部活動完全移行と聞いている。

令和6年度末から8年度にかけて、中学校の部活動を思い切って精選する方向と聞いている。

地域移行は受け皿ではなく、連携であるべき。実際に活動する子ども達の場の確保は避けて通れない。何とかしなければいけない。似たような課題が浮かび上がる。やってみて課題が分かる。

大きな方向性がしっかりと示されると学校現場はビジョンを持ちやすい。

(会長)

現場でのご苦勞や多くの情報収集等いろいろな機会に教えていただければと思う。

(委員)

スポーツ少年団で常任委員をしているが、今のところスポーツ少年団は地域移行の受け皿になりきれしていない。どうスポーツ少年団が中学生部活動に対してアプローチできるか早急に考えていかなければならない。スポーツ少年団の中でシニアリーダーという中学校3年生や高校生がスポーツ少年団の中で指導するという資格の全国スクーリングに関わっていたが、中学生は部活動に入るのでスポーツ少年団が成り立たないという課題があった。スポーツ少年団にとって地域移行は中学生高校生が戻ってきてくれるチャンスだ。ただ、指導者としても今まで上の年代より、下の年代である幼児のACPに焦点が向いていたので、まだ準備が出来ていない現状もある。

(会長)

様々な立場があり、課題の中に光も見えている。

(委員)

中学生や高校生にも障害のある生徒もたくさんいる中で、支援学級の生徒も一緒にサッカー部等で活動している。部活動の地域移行が進むと、技術の問題や移動の問題がある。また、環境整備が必要な生徒もいる。そういった生徒がスポーツから遠ざかることがないように、障害の有無に関わらず一緒に行えるようお願いしたい。

(会長)

それぞれ一人一人を見た時に、スポーツを出来る環境を整えていくのが重要だと思います。

(委員)

岡山スポーツナビの新着情報等更新があまり無い。更新頻度を上げて欲しい。

(スポーツ振興課長)

岡山スポーツナビについては改修が終わったところであり、これから更新頻度について強化していきたい。

(委員)

改修が行われて見やすくなった。情報は増えているか。

(スポーツ振興課長)

少しだが情報は増えている。指導者研修会でも登録をお願いしたい。

(会長)

各界の意見を参考に、多様な子どもから大人までスポーツをする環境を整えてもらいたい。

5 報告事項 資料3

(1) 国民体育大会岡山県選手団の成績について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

資料に沿って説明

(3) 令和6年度全国高等学校総合体育大会について

■事務局説明（保健体育課長）

資料に沿って説明

(4) 「晴れて輝け！おokayama国スポ」について

■事務局説明（国民スポーツ大会推進室長）

6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・長時間にわたるご審議に感謝する。
- ・専門的なご見地からの様々な貴重なご意見を参考にさせていただく。
- ・特に競技力・健康・楽しむことを含め、子どもにより良い環境を提供し、豊かな人生に繋げていくことが大切だというご意見をいただいた。
- ・今年度は岡選手の活躍で盛り上がったオリンピック・パラリンピック、フアジアーノ岡山のJ1昇格、西日本初開催となった国スポ冬期大会とスポーツが盛り上がっており、追い風としてさらなるスポーツ振興に邁進していきたい。